

2学年通信 21号

配信は続くよ どこまでも 5

●必要な無駄

中学生のとき、勉強はあまり好きではなかった。数学の関数を勉強する価値がわからず、担任の先生に「関数なんか勉強して意味があるんですか？」と質問するとその先生は「皆の可能性を開くためだよ。」と答えてくださった。

世の中には無駄なことがたくさんあるが、二種類の無駄があると思う。誰もいない教室の蛍光灯がつきっぱなしになっていけば電気の無駄だ。また、スーパーで使いきれないほど食材を買ってきて、余ったからといって残りを捨てる、いわゆるフードロス。これらのことは「本当の無駄」だ。一方例えば登山。確かに苦しい思いをして山に登る義務はないわけで、登山が好きでない人から見れば無駄なことだ。あるいは、スポーツの大会でいきなり第1シードの優勝候補と当たった初心者の選手がどれだけ一生懸命やっても勝てるはずはない。頑張るだけ無駄である。苦しい思いをして山に登ることや、勝てるはずもない試合に全力で臨むこと自体はその場では無駄なことだ。その後の人生でも何の役にも立たないかもしれない。しかし私はこれを「必要な無駄」と呼んでいる。

登山や試合での頑張りはその後で爽快感や充実感を与えてくれるし、長い人生の中で思わぬ形で別の場面で役に立つことがあるかもしれないがそんなことはどちらでもよいことだ。無駄はあくまで無駄だからだ。ではなぜ必要なのかというと、(本当はここは皆さんに考えてもらいたいところだが) 目先の利益にとらわれず、たとえ無駄であっても自分の素直な気持ちや信念に従ってしんどい思いや努力をすることがきっと自分を成長させる肥やしとなるからである。例えば体力的に海外に出かけることが無理になったお年寄りがそれでも英会話の勉強を続ける。こんな人は人生最後まで成長を続けることができる。

さて、 $y=ax^2+bx+c$ の数式が受験以外で自分の人生に役立ったことは一度もない。しかし、もし関数の勉強をしていなかったなら、おそらく私は今ここにいない。(9組担任)